この街が好きだから

境南町
四丁目にて
no.68

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

この絵は、昨年境南町の天文台通りで、満開の桜をめでながら描いたものである。

桜の種類は、全体で二百種を超すといわれているが、個人的にはソメイヨシノが大好きで、毎年春にこの桜を入れて風景画を描いている時は、私にとって至福のひとときである。

ところで、市内には多くの桜の木があるが、ほとんどが老木なので、将来のことを考えると、心配になってくる。

桜の見頃は、普通一週間程度だが、私はかつて一カ月間にわたり、毎日のように桜を見ながら仕事をしたことがある。それは、私がSLの缶焚(かまた)きとして、桐生～足尾間を結ぶ足尾線（現わたらせ渓谷鉄道）で、二年間乗務していたからである。同区間は、標高差が四百メートルあり、そのため桜の季節が桐生から足尾に向かって少しずつ北上していたのがその理由。今でも時々桜を見ると、当時のことを懐かしく思い出すことがある。

（絵と文：大須賀一雄）

Profile

大須賀一雄
（おおすか かずお）

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。

大須賀一雄「透明水彩の世界展」 2018年4月11日（水）～4月17日（火）／小田急百貨店新宿店本館10階アートサロンで開催